

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 2 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人可部大文字会		
事業所名	グループホーム(山まゆ)フルーツハウス		
所在地	広島市安佐北区大林4丁目10-26 (電話) 082 - 810 - 5585		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102884-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様個々に合わせた個別ケア(自己選択・自己決定)を行う為、24Hシートを導入し生活リズムの把握に努め、一人ひとりの思いを尊重したケアや、生きがいのある場を提供する事を心がけている。また、施設全体での外出の他に少人数・個別での外出支援を多く取り入れ入居者様と地域社会とのふれあいを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人本部内1ユニットからの開設に始まり、平成23年に自然豊かな山河を望み、静かでのどかな環境下である現在の地へ移設し2ユニットに増設し運営している。近隣に小学校や保育所があり定例の交流がある。自治協など地域の活動が活発な地域にて、町内会の運動会やとんどなど行事には必ず声が掛かり、職員も手伝い、利用者も行事に参加するなどふれあいの機会が多くある。「たけのこ会」という小学校の学区外における児童を対象に放課後学童保育の受け入れや、子供会との毎年の行事共催など地域交流が盛んに行われている。事業所は生活のハリや刺激を意図し、手芸や園芸などクラブ活動に力を入れている。職員シフトを4勤交代制にし、日中の職員数を一人でも多くできるよう雇用管理体制を充実させたことで利用者の動きに職員が合わせるケアが行え、外出支援の増加、ゆとりのある入浴や個別アルバム作成など幅広い支援の実践がある。

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各階に理念、施設目標を掲示し、フロア会議等で出勤職員で唱和し、理念の共有、理解を図っている。	法人理念のほか、職員でアンケートや話し合いを元に事業所の年間目標を作成している。今年度は「目配り、気配り、心配り」を策定し各階に理念ともに掲示し、毎月フロア会議で唱和することで共有や浸透を図っている。年度末に実施状況のふり返りを行い報告書にまとめ実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、祭り等参加している。また地域の友人、知人等の面会も度々ある。近隣の保育園、小学校の行事へ参加し地域との交流を積極的に図っている。	町内会準会員に属し、回覧板での案内や町内清掃に参加、散歩の時にはゴミ袋を持ってゴミ拾いをしたりなど、日常的な関わりや交流を通じ地域との関係性を育まれている。祭りなど行事にも必ず声が掛かり参加したりと様々にふれあいや交流をもっている。小学校や保育園、子供会との行事も毎年恒例となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	サロンでの認知症講座の開催、地域での認知症サポーター養成講座の手伝い等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では、利用者の動向等を地域代表や家族代表へ報告し、サービス状況等を把握して頂いている。また、そこで地域連携ができそうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。	法人内の事業所と合同にて開催しており、事業所の取り組みの報告や意見交換を行っている。地域の方からは地域の行事案内や外出先の有益な情報を教えていただくなど、事業所からの発信を含め地域や関係機関との情報交換の場になっている。押し花の意見を取り入れ実践した例もある。	会議後の議事録を参加していない家族全員に送付することで、参加していない家族にも話し合われた内容の周知や、取り組みや活動の理解を深めることができ、会議自体を身近に感じてもらうことにより、より多くの家族の意見の反映に繋がることで更なるサービスの向上に資するよう期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	区職員と、連携を図っている。特に、生活課の担当職員には、入居者・または家族の現状を報告し、状況によって協力要請を行うことで良好な関係作りに努めている。	生活保護での受け入れもあり、生活課と綿密に連絡を取り合い対応を重ねており連携している。地域包括支援センターともいきいき100歳体操や認知症サポーター講座での関わりに協力することや、区の担当職員とも運営推進会議での情報交換やその都度必要事項の確認など協力関係ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会を設置し、研修を行い周知、理解を図っている。今年度より、OJTによる個別での研修を実施している。	法人全体で新人・現任研修を実施している。施設内研修では職員に身体拘束の事前アンケートを実施し、具体的な事案をふまえた内容で身体拘束防止について理解を深めている。気になる事をケア会議で随時検討を行い予防に繋げている。言葉遣いも抑制に係る部分には職員同士で注意し、相互に気にかけて実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を行い、職員に周知理解を図っている。今年度より、OJTによる個別での研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、サービス提供者を中心に後見制度等に関する研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問、質問については随時、細かく対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、面会等の来設時にも随時伺っている。	日々のケアの中で本人の思いを把握し、家族にはサービス担当者会議前にアンケートで意向や思いを記入してもらうほか面会時に話を伺い確認している。おやつレクなど家族の実費負担を考慮しながら計画し、散歩の量を増やして欲しいとの家族の希望には、外出の機会を増やすことやコースを検討し応じた例がある。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り時、毎月の推進会議、フロア会議で、提案、意見を出し合い反映させている。	管理者は職員の意見や思いを気軽に聞くようにしており、提案や意見もすぐに行動し具体化していくことで、言いやすく話しやすい関係性が築かれている。職員シフトを4勤交代制に変更した際にも職員の希望する声から検討を重ねていき雇用管理体制を変更した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を導入し、また日頃から職員の悩み、要望等を聞き、職場環境を調整している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修委員による個別でのOJTで研修会を開催し、また職員のレベルに応じた施設外研修にも参加している。さらに、アンケートをとり悩みに直結した勉強会を施設内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所と研修会等を通じて勉強会、ネットワーク作りを行っている。法人外の居宅介護支援事業所とも連絡を取り合い、協力を仰いでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	特に入居時には既入所者との関係構築のため、席の配置、共同での作業、一人の時間の配慮をし、職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に家族、本人から要望を聞き、また主治医からの意見書等からサービス計画に反映させ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族のように何でも言える関係を築くよう努めている。生活歴や、趣味嗜好を普段の会話から聴き取りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と緊密に連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも気軽に面会できる体制を整え、近所への散歩、地域行事への参加等、個別や小人数での外出の機会を設け、外部との交流を積極的に行っている。	気軽に面会ができ旧知の友人が訪れることもある。個別での外出機会を増やし買い物や利用者の地元近くに行き話をしたりなど、なじみに添う取り組みや、盆や正月も家族の協力を得ながら自宅に帰る方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒にしていただけることはしていただき、レク、行事への参加で関わりが円滑にすすむように図っている。また、職員と一緒に他フロアを行き来する事で交流も支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、日々のケアに取り入れている。また、居室担当を中心に毎月ケア会議を行い、その人に合ったケア方法を模索している。	担当職員を中心に日々のケアの中から様子を詳しく把握していくことで意向の確認をしている。1日の気づき・覚え書きという独自の様式にてその日での事柄や気づきを自由に記載、共有し情報収集を行っている。共有した情報を毎月のケア会議にて議論し支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24Hシート導入の際に、一日の過ごし方を居室担当がメインとなって調査を行い、本人の思いを汲み取る事で、日々の介護に反映できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向、要望を聞き取り、また居室担当、必要に応じて医療機関、専門職の意見も取り入れ、モニタリングし介護サービス計画に反映させている。	本部の作業療法士に意見を聞くなど専門職との協力が図られている。24hシートという独自の様式を参照し、申し送りや日常での意見をケア会議で話し合い職員全員で共有、確認しプラン作成に繋げている。モニタリングも毎月居室担当が自身の意見を入れる形で各自責任を持った見直しを実施し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24Hシートに記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い介護ができるよう努めている。また、覚え書きも活用し実践後の経過観察も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人の要望を少人数や個別の外出、行事、入浴等に取り入れ、ルーチンワークにならないよう実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、スーパーへの買い物等地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設協力医との連携を図り、健康管理している。また必要、要望があれば主治医以外の受診も随時対応している。	以前からのかかりつけ医も家族との協力にて継続も可能であるが、入所時に施設協力医に変更する方が多くある。隔週にて往診があるほか、法人内他事業所の看護師と即座に連携がとれ医療を受けられる安心できる体制がある。今後は訪問看護との連携をより一層深めていくことで更なる充実を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間の連携、法人内他事業所看護職員、医療機関との連携を図り利用者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いをもつようにしている。	入居時に重度化した場合の対応を文書で説明し、意思も確認している。重度化していく状態や状況に家族、主治医など医療機関とで話し合い対応している。適宜、法人内関連施設や医療機関と連携を図り適切に繋げている。現在、看取りは行っていないが今後の課題として捉え、研修など取り組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。また、GH内で勉強会を開催し、事例に応じた対応も実践出来る様に取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的実施している。地域の防災訓練に職員が参加して、地域の協力体制を築いている。また、安佐北消防署主催の防火管理講習にも職員数名で参加している。	法人事業所のバックアップ体制も充実しており、相互の応援・協力体制が整っている。火災避難訓練も年2回実施し、近隣の住民の参加がある。地域の防災訓練に参加し協力することや昨年7月の豪雨災害でもお風呂を提供したりと地域との共生を意識して活動を実践している。避難経路も掲示しており周知しやすい。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1 F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接し方、声のかけ方についての接遇研修を全職員受けている。また日々の業務の中で職員同士や、管理者、リーダーからも注意し、接遇技術の向上に努めている。	法人内、内部研修で理解を深めている。排泄介助も尊厳を意識して声掛けや誘導を行い、トイレや入浴など介助中は扉を閉めて行うことや、希望により同性介助を実施するなど取り組んでいる。職員もお互いに注意し合える関係づくりができています。起床も朝食も時間を設けず個々の時間に合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けを工夫したり、メニューの説明やお品書きの掲示等し、食事に彩りを添えられるようにしている。また出来る方には片付けなどしていただいている。	昼食は法人本部からの供給にて提供し、朝夕もできた食材を盛り付け配膳する形で職員が効率的に利用者に寄り添える体制を目的に実施し、おやつ作りレクやお好み焼を作るなど変化を織り交ぜ楽しめるようにしている。敷地内の畑で採れた野菜も食卓にあがり、育つ成長と食べることを両立した楽しみを演出している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員口腔ケアを実施している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。また、入床前には口腔ケア後に義歯洗浄剤を使用し清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンに合わせて誘導や声かけを行っている。また夜間も、出来る限りパターンに合わせて誘導しトイレでの排泄を促している。	排泄記録表を基に一人ひとりのパターンを把握し、個々のタイミングや様子で声掛けや誘導を行っている。水分も1500cc摂取を目標に心身状態を観察し個別に支援している。パッドのサイズ調整が図れ、使用枚数を減らすことや紙パンツから布パンツに移行できたりと効果も得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時の冷水、センナ茶の提供、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則週3回の入浴を実施し時間、曜日などではできるだけ希望に沿えるようにしている。また季節によっては菖蒲湯やゆず湯へ入湯して頂いている。	入浴は週3回を基本とし午後から提供している。希望があれば午前からの入浴や、時間や曜日も自由に変更し一人ひとりのタイミングで入ることも可能としている。季節により柚子湯や菖蒲湯など楽しめるよう支援している。利用者の状態により職員2名体制で行うなど対応がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人一人の習慣に合わせて就寝 時間、起床時間は自由にしてい ただいている。夜間は2時間に1 回見回りをするが、プライバシー に配慮し小窓の利用や、極力起 こさないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医から処方があった段階で 、看護職員、介護職員共に確認 、理解している。小さな状態変 化についても看護師、管理者に 報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人一人の生活歴、好きなこと に合わせたレク、作業、活動を 提供している。今年度は、クラ ブ活動として月間の予定を組み 取り組んでいる。また一人にな る時間も大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日頃から近隣へ散歩する等外 出している。希望があれば、外 出レク時に希望が反映できるよう 努めている。	日常の散歩では近所住民との 挨拶が交わされ定着している。 日中の職員数を増やす人員体 制にて、個別の外出機会の頻 度も多く取り入れられており 、書道をやっていた方には書 道展へ出かけるなど希望を反 映して実施している。その他 行事に関して本部の行事に合 同にて参加もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように 支援している。	基本的には、入居者の方には お金を所持しない形にさせて もらい、要望に応じて金庫から 出金し、買い物と一緒にいく 等している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1 F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。また、年賀状や絵葉書を作成しレク活動も兼ねて近況報告としている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保つようにし、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。季節の飾りや、製作物を飾り、季節感、生活感が感じられる様にしている。また、活動の写真をフロアに飾りいつでも見れるようにする事で対話のきっかけ作りとしている。	季節の飾り物や利用者の作品などが飾られ季節感を出せるようにしている。飾り付けも幼稚さなどに配慮したり、落ち着いた雰囲気になるように物をなるべく置かないなど、こだわり整備されている。活動の写真もまとめられ見やすく掲示されており、来所者や家族にも好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人の性格、関係性に合わせて、席の配置を随時検討し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時にできるだけ今まで使用していた物を持ってきていただき、配置も本人に聞きながら、また状態に合わせて使いやすいうようにしている。	なるべく自宅の環境に近づけるように配慮し、利用者の個々の状態に合わせて生活が行いやすいようにベッドやタンスなど、配置にも気をつけて行っている。今まで使用していた家具なども自由に持参してもらい、本人のなじみのある穏やかに過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーにし、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っていたいっている。また自立を促すため、車椅子の方にも自操を促している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	各階に理念、施設目標を掲示し、フロア会議等で出勤職員で唱和し、理念の共有、理解を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、祭り等参加している。また地域の友人、知人等の面会も度々ある。近隣の保育園、小学校の行事へ参加し地域との交流を積極的に図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	サロンでの認知症講座の開催、地域での認知症サポーター養成講座の手伝い等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議では、利用者様の動向等を地域代表や家族代表へ報告し、サービス状況等を把握して頂いている。また、そこで地域連携ができそうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	区職員と、連携を図っている。特に、生活課の担当職員には、入居者様・または家族様の現状を報告し、状況によって協力要請を行うことで良好な関係作りに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会を設置し、研修を行い周知、理解を図っている。今年度より、OJTによる個別での研修を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を行い、職員に周知理解を図っている。今年度より、OJTによる個別での研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、サービス提供者を中心に後見制度等に関する研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問、質問については随時、細かく対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、面会等の来設時にも随時伺っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り時、毎月の推進会議、フロア会議で、提案、意見を出し合い反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を導入し、また日頃から職員の悩み、要望等を聞き、職場環境を調整している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修委員による個別でのOJTで研修会を開催し、また職員のレベルに応じた施設外研修にも参加している。さらに、アンケートをとり悩みに直結した勉強会を施設内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所と研修会等を通じて勉強会、ネットワーク作りを行っている。法人外の居宅介護支援事業所とも連絡を取り合い、協力を仰いでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	特に入居時には既入所者との関係構築のため、席の配置、共同での作業、一人の時間の配慮をし、職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に家族、本人から要望を聞き、また主治医からの意見書等からサービス計画に反映させ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族のように何でも言える関係を築くよう努めている。生活歴や、趣味嗜好を普段の会話から聴き取りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と緊密に連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも気軽に面会できる体制を整え、近所への散歩、地域行事への参加等、個別や小人数での外出の機会を設け、外部との接触を積極的に行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒にしていただけることはしていただき、レク、行事への参加で関わりが円滑にすすむように図っている。また、職員と一緒に他フロアを行き来する事で交流も支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、日々のケアに取り入れている。また、居室担当を中心に毎月ケア会議を行い、その人に合ったケア方法を模索している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24Hシート導入の際に、一日の過ごし方を居室担当がメインとなって調査を行い、本人の思いを汲み取る事で、日々の介護に反映できるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向、要望を聞き取り、また居室担当、必要に応じて医療機関、専門職の意見も取り入れ、モニタリングし介護サービス計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24Hシート内に記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い介護ができるよう努めている。また、覚え書きも活用し実践後の経過観察も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人の要望を少人数や個別の外出、行事、入浴等に取り入れ、ルーチンワークにならないよう実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、スーパーへの買い物等地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設協力医との連携を図り、健康管理している。また必要、要望があれば主治医以外の受診も随時対応している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間の連携、法人内他事業所看護職員、医療機関との連携を図り利用者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いをもつようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。また、GH内で勉強会を開催し、事例に応じた対応も実践出来る様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的の実施している。地域の防災訓練に職員が参加して、地域の協力体制を築いている。また、安佐北消防署主催の防火管理講習にも職員数名で参加している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接し方、声のかけ方についての接遇研修を全職員受けている。また日々の業務の中で職員同士や、管理者、リーダーからも注意し、接遇技術の向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けを工夫したり、メニューの説明やお品書きの掲示等し、食事に彩りを添えられるようにしている。また出来る方には片付けなどしていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員口腔ケアを実施している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。また、入床前には口腔ケア後に義歯洗浄剤を使用し清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンに合わせて誘導や声かけを行っている。また夜間も、出来る限りパターンに合わせて誘導しトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時の冷水、センナ茶の提供、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則週3回の入浴を実施し時間、曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。また季節によっては菖蒲湯やゆず湯へ入湯して頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人一人の習慣に合わせて就寝 時間、起床時間は自由にしてい ただいている。夜間は2時間に1 回見回りをするが、プライバイ シーに配慮し小窓の利用や、極 力起こさないように配慮してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医から処方があった段階で 、看護職員、介護職員共に確認 、理解している。小さな状態変 化についても看護師、管理者に 報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人一人の生活歴、好きなこと に合わせてレク、作業、活動を 提供している。今年度は、クラ ブ活動として月間の予定を組 み取り組んでいる。また一人に なる時間も大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	日頃から近隣へ散歩する等外出 している。希望があれば、外出 レク時に希望が反映できるよう 努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	基本的には、入居者の方にはお 金を所持しない形にさせてもら い、要望に応じて金庫から出金 し、買い物と一緒にいく等して いる。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。また、年賀状や絵葉書を作成しレク活動も兼ねて近況報告としている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保つようにし、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。季節の飾りや、製作物を飾り、季節感、生活感が感じられる様にしている。また、活動の写真をフロアに飾りいつでも見れるようにする事で対話のきっかけ作りとしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人の性格、関係性に合わせて、席の配置を随時検討し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時にできるだけ今まで使用していた物を持ってきていただき、配置も本人に聞きながら、また状態に合わせて使いやすいうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーにし、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っていたい。また自立を促すため、車椅子の方にも自操を促している。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム（山まゆ）フルーツハウス

作成日 平成31年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族に対して運営推進会議の内容や存在を周知出来ていない。	運営推進会議の周知を図っていく。	会議後の議事録か、もしくは取り組み内容や、話し合った中身をまとめたものを家族に送付する。	6ヶ月
2		看取り (ターミナルケア) について	ターミナルケアについてGH職員が勉強する機会を作る	勤務調整を行い、内部研修等に参加出来る職員の人数を増やす。参加できない職員に関してはGHで、勉強会を開催し対応していく。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。